

ゆのはな

すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現
～Be true to Rehabilitation～

第14号
2020.1月

新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。令和2年の新春を迎えるにあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。最初に、日頃より別府リハビリテーションセンターをご利用いただいている患者・ご家族様、そして、連携いただいている病院関係者の皆様には、旧年中のご厚情に心から感謝申し上げます。本年も、変わらぬご愛顧をいただきますようよろしくお願いいたします。



理事長 大塚義巳

昨年は、ラグビーワールドカップが当県でも大変な盛り上がりのうちに終了し、諸外国の方々との様々な交流が図られたことは記憶に新しいところです。迎えた新年はどのような一年になるのでしょうか。大きいイベントとしては、7月24日からのオリンピックとそれに続くパラリンピックがあげられます。トランプ氏の再選がかかる11月の米国大統領選挙も他国のことながら気になるところです。このように、昨年までの出来事を振り返り、これからの一年を見通して、新年の抱負や目標を初心を忘れずに思い巡らしてみることが、普段とは違う新春ならではのことだと思います。

ところで、初心を忘れずの初心については、一般的に、はじめの志、若い時の志を指す意味で使われていることが多いようです。一方、有名な「初心忘れるべからず」は、室町時代に能を大成させた世阿弥の著書「花鏡」に書かれているものですが、世阿弥は「初心」には、是非の初心（若い時の初心）、時々の初心（人生の時々の初心）、老後の初心（老後になってからの初心）があるといっています。明治大学の土屋教授によると、世阿弥のいう「初心」は若い時の気持ちに戻ってという意味ではないと述べています。人生にはいくつもの「初心」があり、老いに向かって人生の中でその時々の工夫をし、自分がどう生きていくのかを考えようということであり、さらに、年齢を重ねていくと出会う今まで体験したことのない事態への対応の方法、試練を乗り越えていく時の戦略や心構えのことだとも言っています。

これを私たち別府リハビリテーションセンターに当てはめてみますと、設立当初は、高度成長期の交通戦争、交通事故被害者の社会復帰を目的（初心）としていました。設立から45年以上が経過し、この目的がなくなったわけではありませんが、時代や環境等の変化とともに、リハビリテーションを通じてすべての人が地域でしあわせに生活できる社会を実現する、このように初心は変わってきています。そして、すべての役職員が自分に与えられた立場で、患者様が気持ちよく過ごせるように取り組み、満足していただけるよう努めています。昨今の少子高齢化の進展や地域医療圏の再編成など変化は激しいですが、本年もこの初心を忘れずに参りたいと思っております。

最後になりますが、昨年は広範囲にわたる台風被害など多くの自然災害が発生しました。本年はどのような自然災害が少なく事故などで不幸になる人がいない、そんな穏やかな年であることを祈念しております。

患者満足度調査結果のお知らせ

実施年月：令和元年 7～8 月

回答者

■ 本人 ■ 家族 ■ 知人 ■ その他 ■ 未回答



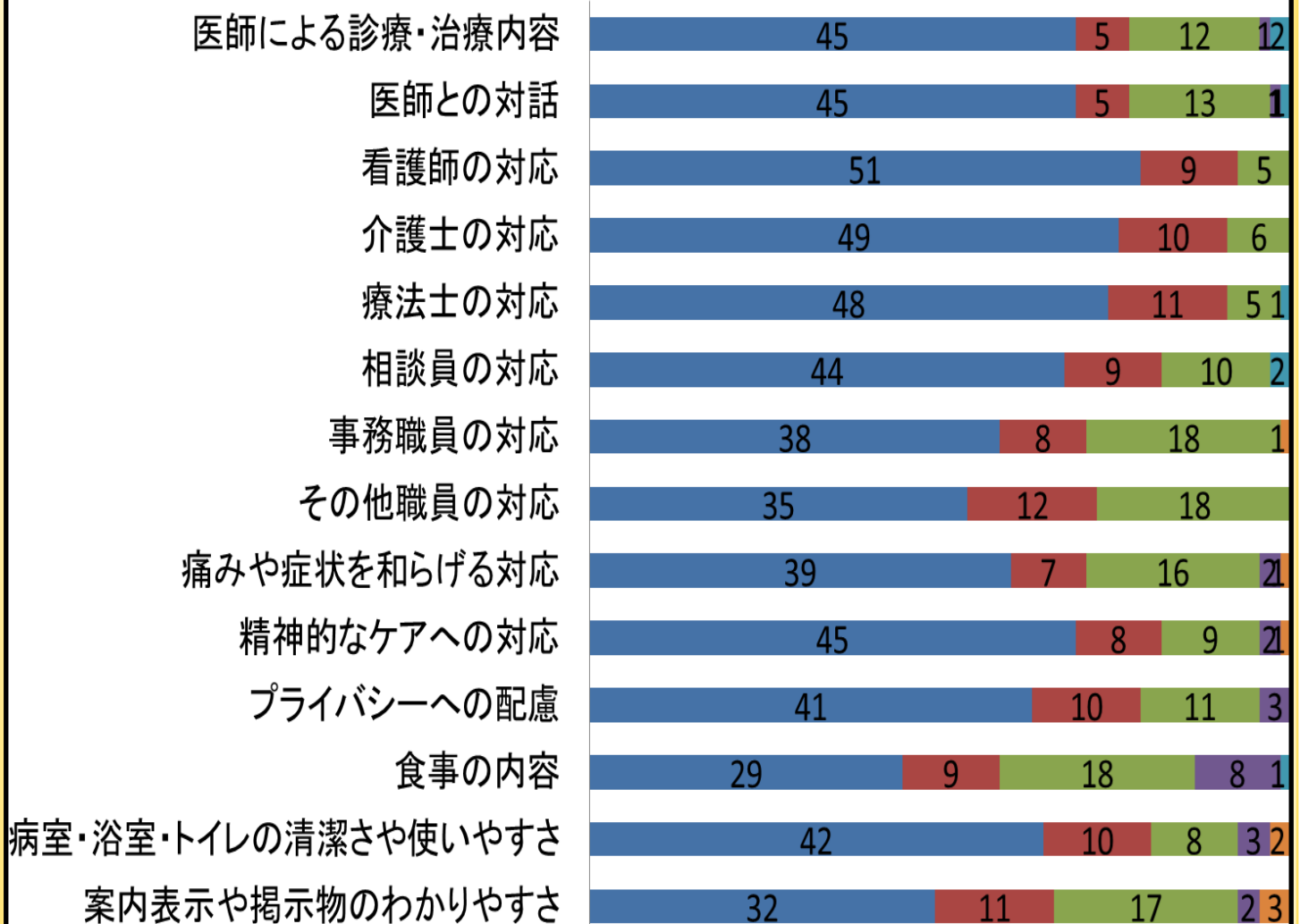
性別

■ 男性 ■ 女性 ■ 未回答



●入院生活に関する満足度

■ とても満足 ■ やや満足 ■ ふつう ■ やや不満 ■ とても不満 ■ 未回答



●当センターを知人に紹介したいか

当センターを親しい方への
すすめ



■ すすめる
■ まあまあ
■ どちらでもない
■ あまりすすめない
■ すすめない
■ 未回答

●皆様の声

スタッフへのメッセージ

- ・看護師さん・療法士全員とても親切に頂き感謝しています。
- ・受傷時は症状も分からずこれからどのように対応しようかと考えていましたが、根気強く関わっていただいたおかげで出来ることも増え理解出来ることも増えました。
- ・不明な事もありますが、外来リハでもう少し出来る事が増え日常生活が送れるようになると良いと思っています。
- ・きめ細やかな対応・本人主体の支援・見守りをして頂き感謝しています。

入院生活で感じたこと

- ・これからの家族のあり方を考えさせられとっても勉強になりました。
- ・朝・昼・夜各食後が食堂へ届いた時に館内放送にて患者さんへこの旨を連絡するシステムを導入してもらいたいと思います。
- ・FreeWifiがつながるコーナーがあるととても便利
- ・食事の献立がもう少し工夫してもらえると楽しみに繋がると思う。
- ・入浴時間がもう少し欲しいです。(次のリハビリ時間に間に合いそうにない時がある。)

今後の取り組み

調査結果により、私たちが日ごろ提供している医療サービスについて患者さん・ご家族がどのように評価され、そしてどのように望まれているかを再確認することができました。

今回の調査を通じて、皆さまからいただいたご意見等を全職員で共有し、今後もより良い病院づくりに取り組んでまいります。

現場のニーズを発表！ ～「介護・福祉ニーズ探索交流会」の開催～

県内企業による介護・福祉分野への参入機会の拡大を図るため、令和元年8月30日に「介護・福祉ニーズ探索交流会in別府リハビリテーションセンター」が開催されました。

「こういう物はないか」「こんな物を作ってもらいた」と、当センターの各事業部門から80件の具体的なニーズが提案されました。

開催当日は41の企業・団体の参加があり、現場から20件のニーズについて発表を行いました。

介護業務支援機器やコミュニケーション機器、見守り支援機器など、利用者さんはもちろん、現場で働く職員にも有益で独創性のある物ばかりでした。

発表後は「マッチング賞 ぜひ自社で取り組んでみたいニーズ」、「アイデア賞 開発テーマとして面白かった、参考になったニーズ」が選ばれました。

県内製造業の技術力と現場ニーズのマッチングのため企業の方々と交流したことは、私たち職員にとって有意義な時間となりました。



認知症ケア

認知症ケアチーム
の活動について

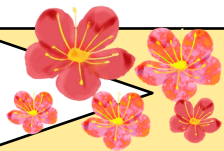
私たちの活動は、認知症を正しく理解し、その人の持つ力を十分に発揮できるよう支援することで、早期にもと居た場所に帰っていただくことを目的としています。また、認知症状による身体拘束を解除する為のカンファレンスや、スタッフやご家族が認知症の理解を深めるための勉強会の開催等を行っています。

認知症を持つ方が、病棟生活を「居場所」と感じられるよう、残存機能のさらなる向上・笑顔を引き出す効果を狙い、日々のレクリエーションを行っています。

得意なこと・興味を引く事柄に合わせて回想療法を通して思い出話や、座ってできる筋肉体操、嚥下体操、風船バレー等、病棟スタッフの協力を得て実施しています。

先日は、介護福祉士主催の運動会があり、人生の大先輩たちが、紅組・白組のキャプテンとして大活躍されました。参加者の楽しそうな様子に私たち自身も励まされています。今後も、笑顔の増える活動を続けていきます。





家族教室開催！

在宅復帰支援委員会

在宅復帰支援委員会は、患者・ご家族の皆様が“退院後よりよく過ごせること”を目的に、『家族教室』を定期開催しています。

今年度はテーマによって、患者も一緒に参加できる教室、ご家族のみを対象とした教室を企画しました。教室に参加した患者より、アンケートで「先の事を思うとトンネルの中に居るような気持ちだが少し光がみえた気がする」「もっと聞きたい良い教室だった」とのご感想をいただきました。

一方で、ご家族のみ対象の教室では、「知らないことだらけだったので色々勉強になった」「本人への対応方法が分かってよかった」等のご感想をいただき、患者の前では聞きにくいような質問ができる場を提供する事の必要性を感じました。

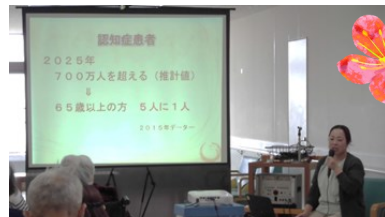
今後も、皆様のニーズに合ったテーマで『家族教室』を開催し、多くの方に参加していただきたいと思います。



7月28日：高次脳機能障害について



9月29日：障害者として人として



11月24日：認知症について

自宅でもできる！
かんたん エクササイズ！

第8回

理学療法士 さとうたいち
佐藤太一

やってみよう セルフストレッチ

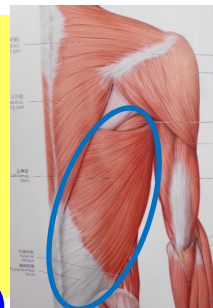
猫背

お困りの方へ

今回はパソコン作業などのデスクワークや携帯電話を長時間使用することでなりやすい猫背についてです。猫背改善の1つとして広背筋のストレッチがあります。

広背筋とは、文字通り背中に大きく広がる筋肉です。胸椎や腰椎、そして骨盤から二の腕の骨である上腕骨についています。面積が最も大きく、その分影響も大きい筋肉と言えます。

広背筋の特徴としては、逆三角形の筋肉と言った方がわかりやすいかもしれません。そんな広背筋のストレッチ方法を1つ紹介していきます。

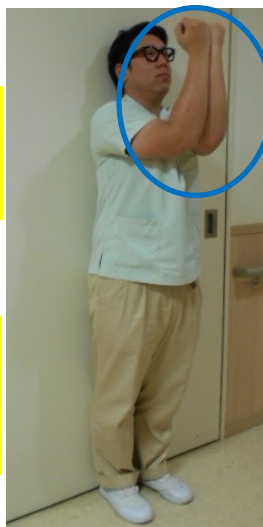


作用

腕を後ろに引くときや脇を締めるときに強い力を発揮します。

1

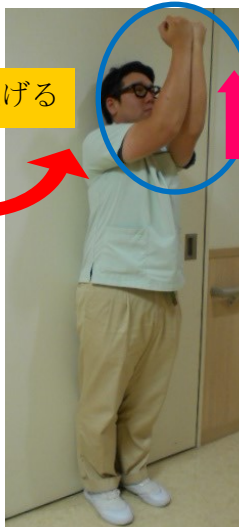
左右の前腕をつけたまま、両腕を上げていきます。（両肘が離れないように）



両腕を上げる

2

両腕を上げると同時に両肘を伸ばして両前腕は、常に壁と平行になるようにして下さい。



3

両肘が離れそうになったら、そこで止めてストレッチしましょう。

ポイント

腰部が壁に接するように、腹部に力を入れておきます。最初は踵を壁から離しておくといやすいです。

発行： 社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

日本医療機能評価機構認定 / 日本リハビリテーション医学会認定研修施設 / 日本脳卒中学会認定研修教育病院



〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10

TEL0977-67-1711 FAX0977-67-1712 <https://brc.or.jp>

